

祝！八峰白神ジオパーク
再認定

1月18日(木)に日本ジオパーク委員会が開催され、八峰白神ジオパークは「再認定」となりました。審査では、ジオサイトの見直しや拠点施設であるぶなっこランドの整備などが評価されました。



再認定を喜ぶジオパーク関係者

日本ジオパークでは4年に一度、地質遺産の保全や活用の状況、前回審査時からの活動の進展について審査を受けます。当ジオパークは、2年前の再認定審査では活動が不十分として「条件付き再認定」となつていまし
た。



昨年の現地審査でニツ森
を視察する審査員

結果が辻正英推進協議会会長に伝えられました。辻会長は「活動が評価されて正直ほつとした協議会みんなでがんばった成果だ。」と語りました。2回連続で「条件付き再認定」となれば日本ジオパークの認定が取り消されるため、吉報を受けた関係者一同は喜びを分かち合いました。また、審査結果では「ブナ林と地すべりを関連付けたジオツアーやも軌道に乗りつつある」と今後の展開に期待する部分もありました。再認定審査は、普段の活動を点検し、全国に44あるジオパークの質を高めていくための仕組みです。今後も審査で評価された部分は発展させ、課題に対しても解消させるよう活動していくます。

この時代の地層からはメタセコイアの他にケヤキやコナラ、ヤマモモ等の化石が産出します。この化石のグループは、男鹿半島の台島周辺で産出した化石を中心いて研究が進められたので、「台島型化石群」と呼びます。秋田県の石に選定されている「ナウマンヤマモモ」もこのグループ

は絶滅した植物だと考えられていましたが、1946年に中国の四川省で現生種として発見され注目を集めました。そのためメタセコイアは「生きた化石」とも呼ばれます。

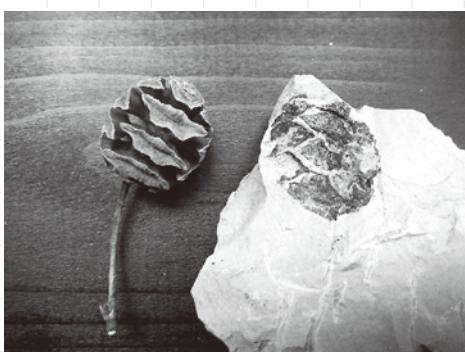
た。メタセコイアはスギ科の落葉高木で、別名アケボノスギとも呼びます。1600万年前には日本を含む北半球に広く分布していました。その後、現在で

ぶなつこランド「森林科学館」では、秋田県内や八峰町で産出する植物化石を展示・解説しています。今回は展示している植物化石の一つを紹介します。

下の写真はメタセコイアの球果の化石で、八峰町の約160万年前の地層から産出したモノ

プに含まれます。この台島型化石群が堆積した当時の環境は温暖で、海岸近くの低地のものと考えられています。

メタセコイアは生育が早く樹高は25mほどになります。また、樹形が美しいことから現在では日本でも並木道や公園に広く植栽されています。ぶなつこランドにも植栽されており、植栽されている現生種と展示している化石を見比べることができます。ぜひぶなつこランドへご来場ください。



メタセコイアの球果 化石（右）と現生種（左）

八峰白神ジオパーク推進協議会
地域おこし協力隊 三 輪 拓磨

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四-一
TEL 0185-77-3086
ふなつこランド内